

生品神社 (太田市)

いくしなじんじゃ

新田義貞公銅像/ここは新田義貞が後醍醐天皇の綸旨を受けて、鎌倉幕府を滅ぼすための兵を挙げたところ/家紋は『大中黒・新田一つ引』





一の鳥居左側には社号標と「史跡 新田義貞挙兵伝説地」と記された石標が立つ



説明板/境内には義貞が旗を挙げたと伝えられる「旗挙げ塚」や陣を構えたと伝えられる「床几塚」があるらしい

国指定史跡 新田莊遺跡

生品神社境内

所在地 群馬県新田郡新田町野井六四〇他
指定 平成十二年十一月一日

新田義貞が後醍醐天皇の繪旨を受けて、元弘三年（一三三三）五月八日、鎌倉幕府（北条氏）討伐の旗挙げをしたところが生品神社境内です。昭和九年に建武の中興六百年を記念して「生品神社境内 新田義貞奉兵伝説地」として史跡に指定されましたが、平成十二年に「新田莊遺跡 生品神社境内」として面積を広げて指定されました。

義貞が旗挙げを行った時はわずか百五十騎でしたが、越後の新田一族などが加わり、たちまち数千騎となつて、十五日間で鎌倉幕府を攻め落としたといわれています。

神社境内には、旗挙げ塚、床几塚があり、拜殿の前には義貞が旗挙げの時に軍旗を掲げたといえられるクヌギの木が保存されています。

現在では、義貞奉兵の故事にならない、毎年五月八日、氏子によつて鏑矢祭が行われています。

この行事は古くから神社に伝わるもので、旗挙げの時に鎌倉攻めの吉凶を占つたといわれています。

平安時代に編集された「上野国神名帳」に「新田郡従三位生階明神」と書かれていることから、神社は平安時代には存在していたと推定されます。

平成十三年七月

文部科学省
群馬県
新田町

国指定史跡 新田莊遺跡

生品神社境内

所在地 群馬県新田郡新田町市野井六四〇他
指定 平成十二年十一月一日

新田義貞が後醍醐天皇の綸旨を受けて、元弘三年（一三三三）五月八日、鎌倉幕府（北条氏）討伐の旗拳げをしたところが生品神社境内です。昭和九年に建武の中興六百年を記念して「生品神社境内 新田義貞拳兵伝説地」として史跡に指定されましたが、平成十二年に「新田莊遺跡 生品神社境内」として、面積を広げて指定されました。

義貞が旗拳げを行った時はわずか百五十騎でしたが、越後の新田一族などが加わり、たちまち数千騎となつて、十五日間で鎌倉幕府を攻め落としたといわれています。

神社境内には、旗拳げ塚、床几塚があり、拝殿の前には義貞が旗拳げの時に軍旗を掲げたと伝えられるクヌギの木が保存されています。

現在では、義貞拳兵の故事にならない、毎年五月八日、氏子によって鏑矢祭が行われています。

この行事は古くから神社に伝わるもので、旗拳げの時に鎌倉攻めの吉凶を占ったといわれています。

平安時代に編集された「上野国神名帳」に「新田郡従三位生階明神」と書かれていることから、神社は平安時代には存在していたと推定されます。

平成十三年七月

群馬県
新田町
文部科学省

神社拝殿の前には義貞が軍旗を掲げたと伝えられるクヌギの木が保存されているとも記されている

付近には様々な史跡があるようだ



「新田荘遺跡」を構成する各史跡

新田荘遺跡案内図

NITTANOSHO ISEKI GUIDE MAP

史跡「新田荘遺跡」

- 1 同福寺境内
- 2 十二所神社境内
- 3 徳持寺境内
- 4 長盛寺境内
- 5 東照宮境内
- 6 朝王院境内
- 7 産品神社境内
- 8 天町跡跡
- 9 江田跡跡
- 10 會風水堀
- 11 長太神水堀

国指定史跡

「新田荘」は、平安時代末期の12世紀中頃に成立した新田氏の荘園です。太田市西部を中心とした地域には、かつて日本の中世史を代表する荘園「新田荘」が存在し、ここを本拠に新田氏一族が活躍を繰り返していました。この荘園の遺跡は、現在も数多く残っています。

平成12年11月1日、それらの中の代表的な遺跡が「新田荘遺跡」として国の史跡に指定されました。この史跡は、「新田荘」に関連する寺社境内・庭跡・湧水地など、11の遺跡から構成されています。

この史跡の特徴は、広域に存在する複数の（指定時は、太田市・原島町・新田町の1市2町）の中世遺跡を荘園遺跡として面的にとらえ、1つの史跡としたところにあります。

新田荘沙かりの文化財

太田市教育委員会

手前は神橋/欄干には、新田氏の家紋である『大中黒・新田一つ引』が入っている



こちらは二の鳥居



右手には「史蹟生品神社境内 新田義貞擧兵傳説地」と刻まれた石標が立つ



こちらは「新田義貞公挙兵六百五十年記念」碑



アップで見たところ



こちらは銅像の台座だけが残っている



「新田義貞公並一門挙兵之地」とある石碑



こちらにも/いやはや、石碑のオンパレード



さて、こちらは三の鳥居/「生品神社」の神額が架かっている

[video](#)



覆屋で保護された「神代木」/これが新田義貞が旗挙げの際に軍旗を掲げたとされるクヌギの木



生品神社拝殿/社殿の左裏には「富士嶽浅間神社大神」と刻まれた石碑と石祠があるようだ



「生品神社」と記された扁額



右手から見たところ



正面が本殿



さて、ここは太田市に所在する円福寺境内にある「伝新田氏累代の墓」





伝新田氏累代の墓

御室山金剛院円福寺は古義真言宗の寺で、新田本宗家4代の新田政義が開基したと伝えられる。開山は政義により京都御室の仁和寺から招かれた阿闍梨静庵とされる。

政義は寛元2年(1244)大番役(朝廷警固)のため在京中、所勞と称し、六波羅探題や、上司である上野国守護安達泰盛の許可を得ず仁和寺に入り出家した。このため幕府よりどがめを受け、所領の一部を没収され失脚し帰国、由良郷別所に墾居した。円福寺はこの時に開基されたものと考えられている。

由良郷は別所・細谷・脇屋・奥(沖野)の4ヶ村を付属させた大きな郷で、新田氏本宗家の所領であった。新田本宗家の館跡が円福寺の北東隣接地(大字別所字大門)や東方(大字由良字北之庄)に想定されている。なお、この地域には室町・戦国期に岩松氏・横瀬(由良)氏の城館が築かれている。



●所在地 太田市大字別所字山越604 円福寺

伝新田氏累代の墓は茶白山古墳前方部東側にあり、多層塔・五輪塔・板碑の台石20基ほどがある。石材は新田郡笠懸町西鹿田の天神山産出の凝灰岩と同定されている。この中の一基の五輪塔地輪部に、新田義貞の祖父新田基氏の法名とされる「沙弥道義」の銘文がある。

昭和54年度に墓地の保存整備事業を実施した際、発掘調査が行われ、埋葬施設が確認された。出土した骨蔵器には、中国産の白磁四耳壺、常滑焼・渥美焼の壺、地場産の軟質陶器が用いられている。中国製磁器が出土することはめずらしく、新田氏の財力の大きさを物語るものであろう。他の出土遺物に、かわらけ、板碑(建武5年銘ほか)、渡来銭(北宋銭が中心)、仏具、阿弥陀教の一部を写経した経石などがあり、中世仏教信仰を知るうえでも興味深い。

墓が営まれた年代は骨蔵器・板碑・五輪塔群の様式から推定すると、鎌倉時代中期～南北朝時代(13世紀中頃～14世紀中頃)と考えられる。

平成3年(1991)2月28日

太田市教育委員会



「沙弥道義」の銘がある五輪塔地輪部の拓影図

沙弥道義七十二去
元亨四年(1324年)六月十一日巳

覆屋の中には、多層石塔や五輪塔など数多くの新田氏累代の墓が並ぶ



反対側から見たところ



参考ホームページ

[太田市 | 新田荘遺跡（生品神社境内） \(city.ota.gunma.jp\)](http://city.ota.gunma.jp)

[新田義貞挙兵の地・生品神社（群馬県太田市） - 四季・めぐりめぐりて \(goo.ne.jp\)](http://goo.ne.jp)

